

令和6年第二次世界大戦戦亡者慰霊祭



日時：令和6年8月15日（木）

10:00～

場所：探勝園（城山公園内）

会次第

開式

一同拝礼

黙祷

慰霊のことば

鹿児島市長 下鶴 隆央

鹿児島市議会議長 川越 桂路 様

児童代表 名山小学校6年 大山 花 さん

生徒代表 鹿児島玉龍中学校3年

高橋 大和 さん

献花

一同拝礼

閉式

鹿児島市平和都市宣言

わたくしたちの郷土鹿児島市は、先の大戦により市街地のほとんどを焼失し、多くの尊い人命と財産を失った。

鹿児島市は、その焦土の中から立ち上がり市民の英知とたゆまぬ努力によって、今日、南九州の中核都市として限りない発展を続けている。

わたくしたちは、この平和で豊かな郷土を次の世代に引き継ぐために、再び戦争による惨禍を繰り返さないことを誓い、あらゆる国の核兵器の全面廃絶と国是である非核三原則の遵守を希求し、世界の恒久平和の達成を願い、ここに「平和都市」を宣言する。

平成2年2月26日 鹿児島市



平和都市宣言30周年記念作品

絵画の部 最優秀作品

吉野東中学校 小野 馳昂さん



本日の様子や「慰霊のことば」は、本市HPでも紹介予定です。
<https://www.city.kagoshima.lg.jp/soumu/shichoshitu/hisyo/shise/heiwa/sennbousya.html>



鹿児島市

第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑（解説）

① 鹿児島市の戦災

第二次世界大戦終盤の昭和20年、本市は大規模な空襲により市街地の約93%を焼失し、当時の人口の約3分の2にあたる11万人以上が被害を受け、終戦を迎えました。



昭和20年、焼け野原となった市役所周辺の様子
（撮影：平岡正三郎氏）

② 慰霊碑の建立・由来

第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑は、昭和28年12月、大戦で亡くなられた世界中の方々を悼むとともに、二度とこのような惨事が起こらないことを祈念するため、第14代 勝目清 鹿児島市長により建立されました。

当時は中央公園に建てられましたが、その後、地下駐車場建設に伴い、現在の城山公園内探勝園に移設されました。



第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑（探勝園）

「第二次世界大戦敵味方戦亡者慰霊碑」建立の趣旨（慰霊碑横の石碑）



第二次世界大戦では、世界中で二千数百万人の生命が失われたようであります。その霊をなぐさめるとともに再びかかる惨事が起こらないようにと思ってこの碑を建てました。旧薩摩藩主島津義弘は朝鮮での戦争で亡くなった、敵味方の人々のため慶長4年高野山に供養碑を造りました。これは日本における赤十字精神の見本として世界各国に有名であります。此処に造った碑は、前記の供養碑と同じ形、同じ大きさであります。

昭和28年12月25日 鹿児島市長 勝目 清

③ 高麗陣敵味方戦死者供養碑

慰霊碑の手本である「高麗陣敵味方戦死者供養碑」は、高野山の島津家墓所の一角に建立され、県指定文化財となっています。

供養碑は高さ385cm、幅81.8cmの位牌形で、碑の中心に敵味方の兵士を供養する旨、その右側に敵、左側に味方の被害が刻まれています。これらは武士道の博愛精神の発露としても知られています。

また、明治41年、島津家子孫の忠重により、英訳した碑文を刻んだ碑も建てられています。



高麗陣敵味方戦死者
供養碑
(和歌山県高野町)



島津義弘公銅像
(JR伊集院駅)

④ 慰霊祭の開催

本市では、慰霊碑建立以来、8月15日にご遺族をはじめ関係の方々に参加いただき、「第二次世界大戦戦亡者慰霊祭」を開催しています。

式典では、慰霊のことばや献花を捧げ、敵味方の区別なく戦亡者を慰霊するとともに、再び戦争の惨禍を繰り返さないことを誓っています。



戦後79年が経過し、国民の大半が戦争を知らない世代となり、戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。また、ウクライナをはじめ、世界各地で紛争が絶えることはなく、今なお多くの市民の命が脅かされています。

本市は、今後も市民の皆様とともに、慰霊碑に込められた思いを次の世代へ語り継いでいくとともに、世界の恒久平和の達成を願い、不断の努力を続けていきます。



児童・生徒からのメッセージ

山下小学校6年 下茂 菜々美さん

ニュースでは遠い国が戦争をしているとよく聞きます。しかし、私にとって戦争は身近なものではありませんでした。戦争のことを知るために「あの花が咲く丘で、きみとまた出会えたら。」を読みました。戦時中の鹿児島が描かれた本を通して、戦争は遠い国の話ではなく79年前鹿児島でも起こっていたこと、子供から大人まで多くの命や夢をうばうことを知りました。こんな悲しい出来事は二度と起きてほしくありません。

今日は戦争が終わった日。戦争で亡くなった方々のことを思う一日です。今の生活を当たり前と思わず、大切に生きたいです。



生命の尊さについて学ぶ
道徳の授業

長田中学校3年 横馬場 璃香さん



長崎平和公園
平和集会の様子

長田中学校では、2年生の修学旅行で長崎を訪れ、平和の尊さについて学習しました。教科書の資料やテレビの映像でしか見るができなかった戦争の様子を、実際に長崎の原爆資料館に行くことで、肌で感じることができました。

私たちはこれから先、戦争の悲劇を忘れてはなりません。私たちの先祖がつないでくれた命のバトンを絶やすことなく、次の世代へ繋いでいく使命があります。そして、次の世代へ伝えていく必要もあります。世界から戦争をなくすために、私たちにできることを探してみませんか。

甲東中学校3年 築山 恭子さん

私が通っている甲東中学校では、2年生の総合的な学習の時間で「平和」について学びます。修学旅行では長崎の原爆資料館へ行き、学びを深めます。長崎に行った際には、実際に戦争を経験された方からのお話を聞くことができ授業で習ったことがより現実で起こったことなのだと改めて感じることができました。

現在の平和な日本からだと考えにくいことですが、世界では戦争や紛争が今も続いています。平和な日本であり続けるためにも先人達が伝えてきてくれたことを私たちが次の未来に伝えていきたいと思います。



長崎の原爆資料館における
平和学習講話